マーケッター見参！

明日へのステップ

コスモビューティー

―その1

大手化粧品OEM企業

自動車工業用品メーカー事業も エア販売量300万缶

今回の「マーケッター見参」には株式会社コスモビューティー（大阪本社＝大阪市中央区内本町一丁目1番1号、TEL＝06―7733―7191、東京本社＝東京都板橋区成増一丁目30番13号、TEL＝03―6631―6910）に登場いただいた。

本紙「化粧品受託製造、産業欄」で何度も取り上げられているように、コスモビューティーは大手化粧品OEM企業として知られているが、同社は、エアゾール自動車・工業用品でも高実績をあげている。特にブレーキ&パーツクリーナーでは同市場においてトップ争いに加わるほどの存在感を見せており、本紙推定によると年間製販量は合計で300万缶前後にのぼるものと観測されている。

今回は、化粧品OEM事業については他に譲り、コスモビューティーの旧モクケン・雑貨NB事業にスポットを当てて「会社と製品」を紹介していきたい。

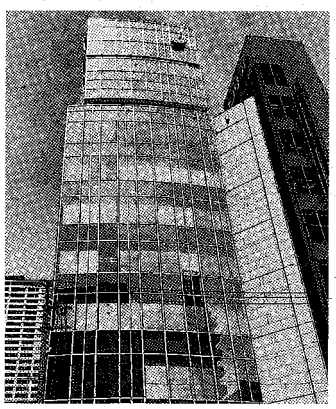
＊　＊　＊

1949（昭和24）年、初代社長である阿尾謙司氏が、大阪市都島区にてモクケン化学工業所として発足し、工業用特殊洗剤の製造販売を開始した。創業時の社名である「モクケン」は当時の主力商品であった、おがくずパウダー入りの石鹸、木（おがくずパウダー）十鹸（練り状の石鹸）＝木鹸（モクケン）に由来しているという。この商品は、創業者が当時の友人から教わったもので、石鹸カスと呼ばれる石鹸成分の残りを溶かし、木クズ（おがくず）を大きなすり鉢のような容器に入れて混ぜ合わせたもの、廃品から造った半練り状の石鹸である。木クズが頑固な汚れを絡め取るのに優れていたので、工場などでは油汚れを簡単に落とせるスクラブ効果のある手洗い石鹸として好評だったという。

創業当時は、朝鮮戦争の影響で軍需関連産業の鉄鋼業において非常に需要が高かったものの、既にライバル商品も多く、後発メーカーであった同社は、まだ発展途上にあった自動車産業界へ営業活動の主軸を置く選択をした。このことが、後に時代の流れを掴むきっかけとなる。高度経済成長とともに日本は車社会の時代へと変化していったのである。自動車産業界で営業活動を本格的にスタートさせたことが功を奏し、その結果、国内のあちこちに更なる活動の拠点が増えて需要が急増。社員一人当たりの得意先件数が200件にまで増加したという。

1969年、大阪市都島区にモクケン化学工業株式会社を設立（1992年に株式会社モクケンに商号変更）。このころ、これまで主力商品であったオガクズ石鹸は、汚れ落としや研磨剤としての役割が大きいオガクズがのままに、デメリットを解消する洗い流しやすい研磨剤を配合した工業用洗剤「ユーゲル」が新登場。瞬く間に業界に浸透し、リピートにつながるヒット商材となった。

手触りの優しいスクラブで、頑固な汚れが落ちる上、洗面所も汚さず詰まらせない「ユーゲル」は、「お客様が要望するものを形にしたもの」と確信した当時の社員が、ユーゲル拡販のために机一つを車に積み東京へ進出。1974年、東京都板橋区船渡に東京営業所を設立し、本格的に全国区に販売を開始した。「不屈の精神で」東西の流通に商品をうまくのせ、成功を成し遂げたという。その後、オイルショックであらゆる物資が一時的に枯渇し、各社メーカーは原料調達すら困難な状況になるなか、同社は「お客様目線で考え、安定した価格で製品を造り続ける」ことに徹し、その結果、顧客の信頼を得、さらなる企業としての機動力や信頼関係を築き、不利な状況でも工夫するという技術ノウハウを得たという。1976年には大阪市城東区放出に第二工場を新築。本格的に多品目の開発に着手するため研究所も設置し、新たな処方開発にも「意欲的に」取り組み、クリーナーのみならず自動車用洗車ケミカルや整備ケミカルなど幅広いラインナップを揃えていった。



7月に開設した本社機能をもつセントラルオフィス（大阪市中央区内本町）

80年代、「クリームをつくってほしい」という顧客の一言から、化粧品第1号となる「アロエクリーム」が誕生。そして1986年にモクケンの化粧品部門が独立し、有限会社コスモビューティーを設立。1991年に株式会社コスモビューティーへ法人組織変更。2007年、株式会社モクケンと株式会社コスモビューティーが経営資源の集約の為合併し、現在の株式会社コスモビューティーが発足した。同社は、東京都板橋区成増の東京本社ならびに、7月に本社機能を移転したセントラルオフィス（大阪市中央区内本町）の2本社体制を取っており、本紙5月25日号で既報のとおり2019年3月期の売上高は216億円である。そのうち雑貨NB事業の売上高は1割から2割と言うが、「化粧品が大きく伸びているので比率としては小さくなっているが、けっして落ちているわけではなく、安定した実績をあげている」としている。

次号では、同社がNB品として展開するエアゾール製品を紹介していきたい。

（つづく＝文責・生亀）

会社と製品